

イレズミ図版の履歴研究 ——マルケサス諸島の事例を通して

大太 瑛吉

一 はじめに

マルケサス諸島は 12 の火山島と 1 つの環礁からなる仏領ポリネシアの島嶼グループである。有人島は北からヌクヒヴァ (Nuku Hiva)、ウアフカ (Ua Huka)、ウアポウ (Ua Pou)、ヒヴァオア (Hiva Oa)、タフアタ (Tahu Ata)、ファトゥヒバ (Fatu Hiva) の 6 島である。洗練された彫刻工芸品だけでなく、イレズミ慣行でもよく知られる島々である。民族誌によると、イレズミの施術部位および施術文様には性差が認められ、通過儀礼やタブ (禁忌行為) といった社会的側面と関連していたことが分かっている [Handy 1921]。ただし、現在のイレズミ慣行は、1990 年代にタヒチを発端とする文化復興運動の興隆を受けて復元されたものである。マルケサス諸島が 1846 年にフランス植民地となり、イレズミの施術自体が 1884 年に禁止されたことで元々の慣行は廃れたと考えてよい。それゆえ、当時のイレズミ文様を知るには、初期航海者の記録や、禁止前に施術された島民たちに関する民族誌的情報に頼るしかない。

マルケサス諸島のイレズミが西洋に知られるようになったのは大航海時代にさかのぼる。それから 19 世紀中ごろにかけて、太平洋航海の中継地点となったこれらの島々に西洋人が訪れるようになり、イレズミを施した島民の様子が航海記に記載された。20 世紀に入るとイレズミに焦点を当てた民族誌的調査も行われ、その報告が発表された。20 世紀後半には、イレズミと社会構造の関係を論じる文化人類学的研究が盛んになり [桑原 2022]、さらに 21 世紀に入ってから、西洋の博物館美術館に収蔵されている民族資料の来歴調査が増えてきている。その流れに沿って、航海記の史料批判や、離散した史資料の再収集・再整理も進められている [Thomas 2019]。たとえば、ロシア海軍のクルゼンシュテルンが率いた調査隊によって 1804 年にマルケサス諸島で素描されたイレズミのスケッチブックがロシア国内での人類学者エレナ・ゴーヴァーによる調査で発見された [Govor 2005]。ゴーヴァーは、出版物の掲載図版と

現地素描との差異について指摘している。本稿の目的では、このクルゼンシュテルン調査隊由来のイレズミ図版資料について、初版以降の改変も含めた変遷を整理することにある。

二 イレズミ図版の製作過程

イレズミ図版が刊行されるまでのプロセスを図1にまとめた。まず、西欧の航海者たちが現地で出会った島民のなかで、イレズミを全身に施していた人物は限られていただろう。イレズミの全身施術には専門職 *tuhuna* を数十年に渡って雇う必要があり、相当量の財と贈答品を用意しなければならなかった。それゆえ、全身施術が可能だったのは首長やその近親者に限られていたはずである [Handy 1921]。現存するイレズミ図版の多くは全身施術の人物であることから、素描の段階でモデルの選択が介在したことになる。それから出版に至るまでに、本国で素描から下絵が制作され、それに基づいて彫版が用意される。この工程は多くの場合、航海に同行していない彫版師が担った。完成した図版にはキャプションが付され、航海記などに掲載された。翻訳版が他国で出版される際には、下絵や彫版が新たに用意されることもあった。出版の前後に介在する過程は多岐に渡ることから、刊行されたイレズミ図版を航海時の客観的な情報として鵜呑みにすることは出来ない。それゆえ、多くの情報が図版資料に由来する 19 世紀のイレズミ慣行を扱う際には、各種の図版が刊行されるまでの履歴を把握する史料批判的作業が必要になる。しかし、先述のゴーヴァーの論考を除くと、イレズミ図版の改変過程について十分な議論は行われていない。そこで、クルゼンシュテルンの航海記に焦点を当て、その初版と翻訳版を収集し、図版の比較を試みた（表 1）。

表 1 本論考で使用した文献所蔵機関一覧

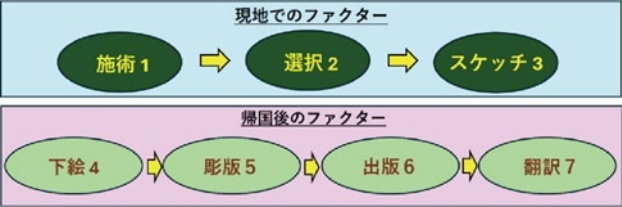


図1 イレズミ図版製作過程

版の種類 (出版年)	所蔵機関	利用可能なデジタルアーカイブ
露版 (1809)	国立国会図書館	アメリカ議会図書館 国際日本文化研究センター
独版 (1810)	東京国立博物館資料室	—
図版 (1813)	国立国会図書館	アメリカ議会図書館
英語 (1813)	国立国会図書館 慶應義塾大学図書館	アメリカ議会図書館 国際日本文化研究センター
仏版 (1821)	国立国会図書館	—

三 クルゼンシュテルンの探検航海

18 世紀末のロシアは北太平洋と北アメリカ北西海岸部まで進出しており、ロシア領アメリカ（北緯 55 度以北のアラスカ）やアリューシャン列島、千島列島での毛皮採取、鉱物採掘を行う露米会社（通称 RAC）が設立されていた。当時のロシアは、ユーラシア大陸の東西の港を航路で結び、さらに中国との毛皮交易を展望していた。18 世紀後半のジェームズ・クックやラ・ペルーズに追随することを望んでいたロシア海軍の思惑とも一致し、皇帝アレクサンドル一世と露米会社の支配人ニコライ・レザノフ男爵の支援を受けて、エストニア出身の海軍提督アーダム・ヨハン・フォン・クルゼンシュテルン率いる太平洋探査航海が計画された [Govor 2010]。

上記の目的に加え南米との交易拡大も視野に入れていたことから、艦隊を構成する 2 隻 Nadezhda と Neva は 1803 年に、バルト海にあるロシア海軍の軍港クロンシュタットからデンマーク、イギリス、カナリア諸島を経て大西洋を横断し、ブラジルに寄港した。その後、南米大陸南端のホーン岬を回って太平洋に入り、そこから北太平洋に位置する日本とカムチャッカに寄航し、アフリカ大陸南端の喜望峰を經由して 1806 年にクロンシュタットに戻った。マルケサス諸島には日本に来航する前の、1804 年 5 月に 12 日間滞在している [Thomas, Govor 2019]。

四 クルゼンシュテルンの航海記



図 2 オリジナル図版 (Plate 10)



図 3 英訳版(1813)掲載図版



図 4 オリジナル図版 (Plate 8)

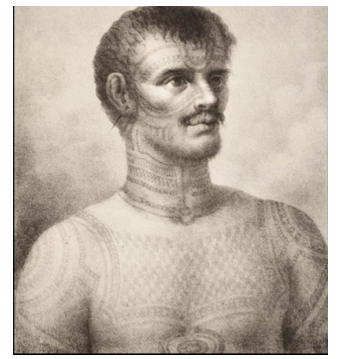


図 5 仏語版(1821)掲載図版

クルゼンシュテルン自身の航海記、『1803、1804、1805、1806年にわたる世界周航記』の露語版は1809年、独語訳版は1810年、英語訳版はロンドンで1813年、仏語訳版は1821年にそれぞれ出版された。銅板刷り図版は1813年刊行の露語版が初版となる。本論稿ではこの図版本をオリジナル図版と呼ぶことにする。

オリジナル図版には、マルケサス島民を描いた図版が計7枚掲載された。ドイツ語訳版には図版はともなわないが、英語訳版では1枚、仏語訳版では5枚が掲載されている。オリジナル図版と各翻訳版の図版を比較すると、英語訳版（図2、3）にはイレズミの文様や背景の植生に省略化が認められた。フランス語訳版では容姿が西洋人風に仕上げられている。また、彫版技法の相違からか、線描が不明瞭に見える（図4、5）。このように、クルゼンシュテルンの航海記に挿入されるイレズミ図版は各翻訳版に差異が認められる。これはオリジナル図版の銅板が翻訳版の刊行時に共有されなかったことを示唆する。

さらに、日本国内の図書館や研究機関が運営するデジタルアーカイブを用いて収集した 1813 年刊行のオリジナル図版自体にも、3 種類のバリエーションが認められた。「Plate15」と付された図版を事例に以下に説明する。まず図 6 は国立国会図書館所蔵のものである。10 人の人物像と図版下部にロシア語でタイトルが記されている。図 7 はロシア国立図書館所蔵の図版である。各人物の上に数字が振られておりタイトルにはドイツ語訳が追記されている。銅版刷りの工程で、紙を濡らして銅板を押し付けるため、その枠跡が紙面に残る。ロシア国立図書館所蔵のイレズミ図版では、図版面の外側に 2 本の薄い線が認められる。このことから、人物描写とロシア語タイトルが刻まれた銅板の後に、番号とドイツ語のみの銅板が重ね刷りされた可能性がある。Plate15 はこの 2 種類だけではない。ゴーヴァーが論考で使用した 1813 年刊行の図版には着色が施



図 6 オリジナル版 plate15 (国立図書館所蔵)

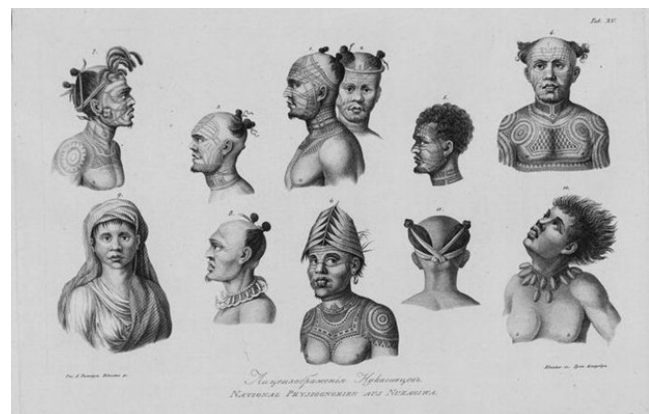


図 7 オリジナル版 plate15 (ロシア国立図書館所蔵)



図 8 ゴーヴァー(Govor 2020)使用の plate15 図版

(Atlas k Puteshestvii u vokrug sveta Kapitana Kruzenshterna 掲載)

されている（図 8）。また、上段中央男性には肩部のイレズミ、下段左から 2 番目の男性には顔面文様が追加されている。

実はクルゼンシュテルンの航海記は 2020 年に再版されている。販売元のウェブに掲載された説明を参照すると、「1813 年に出版された貴重なカラー版の図版を現在確認できるものは掲載する¹⁾」との記載があり、1813 年には多色刷りの図版も製作された可能性が浮かぶ。図版資料は掲示できないが、興味深いことにフランス語版に掲載された単色刷り図版のイレズミ文様は、この多色刷り図版と酷似することを確認した。1821 年に刊行されたフランス語版の図版は、1813 年の多色刷り図版を複製したものかもしれない。

五 まとめ

¹⁾

https://shop.rgo.ru/catalog/knigi/pereizdaniya_raritetov/atlas_k_puteshestviyu_vokrug_sveta_kapitana_k_ruzenshterna/ 2024 年 6 月 26 日閲覧

今回の比較分析をととして、少なくとも二点指摘できる。一つは、クルゼンシュテルンの航海記において、1813 年刊行図版のエッチング銅板は翻訳版では共有されなかった。それゆえ 1813 年刊行の英語訳版と 1821 年刊行の仏語訳版では、露語版図版をもとに銅板が複製され、その際に脚色や変更が加えられたと考えてよい。なお、1810 年刊行のドイツ語訳版には図版は組み込まれていないが、1813 年刊行のオリジナル図版のなかには、ロシア語タイトルにドイツ語訳が付された事例が存在する。加えて、多色刷り図版も同時に製作された可能性がある。管見の限り、オリジナル版に複数版あった可能性は未だ指摘されていない。

ゴーヴァーは plate15 を事例として用いて、現地で製作されたスケッチと多色刷り図版を比較し、イレズミ文様の差違を指摘するとともに、図版の再現性の低さに言及している [Govor 2005]。たとえば、素描では前方で横を向く男性と背後で正面を向く男性のどちらも頭部のみ描写されているが(図 9)、多色刷り図版では前方の男性にはイレズミが施された肩部が、背後の男性にはイレズミが施された胸部が追加されている点をゴーヴァーは指摘した(図 10)。しかし、国立国会図書館所蔵のオリジナル図版(図 11)では肩部や胸部のイレズミ表現は認められない。比較対象によって結果は異なることになる。オセアニアの物質文化

研究では、文献掲載の図版が参照資料として活用されることがある。比較の蓋然性を高めるためには、図版資料の緻密な整理と史料批判がますます必要になる。

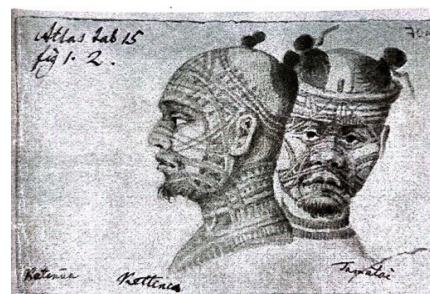


図 9 現地で製作された素描



図 10 多色刷りオリジナル版



図 11 オリジナル図版

(国立図書館所蔵)

参考文献

- 桑原牧子 2022 「顔を横切る黒い帯をめぐって——マルケサス諸島の文様の変容」 山本芳美、
桑原牧子、津村文彦編『身体を彫る、世界を印す—イレズミ、タトゥーの人類学』 pp. 21-
50、春秋社。
- Dodge, E. S. 1939. *The Marquesas Islands collection*. Peabody Museum of Salem.
- Eric Kjellgren, Carol S. Ivory. 2005. *Adoring the World Art of the Marquesas islands*. The
Metropolitan Museum of Art.
- E. S. Craighill Handy 1971. *The Native Culture in the Marquesas*. Bernice P. Bishop
Museum Bulletin 9, Bernice P. Bishop Museum.
- Govor, E. 2005. Speckled Bodies: Russian Voyagers and Nuku Hivans, 1804. In N. Thomas,
A. Cole and B. Douglas (eds.) *Tattoo: Bodies, Art and Exchange in the Pacific and the
West*, pp. 53-71 Reaktion Books.
- Govor, E. 2010. *Twelve days at Nuku Hiva : Russian encounters and mutiny in the South
Pacific*. University of Hawaii Press.
- Greiner, Ruth. H. 1971. *Polynesian Decorative Designs*. Bernice P. Bishop Museum Bulletin
7, Bernice P. Bishop Museum.
- Handy, W. C. 1922. *Tattooing in the Marquesas*. Bernice P. Bishop Museum Bulletin 1,
Bernice P. Bishop Museum.
- Handy, W. C. 1965. *Forever the Land of Men*. New York, Dodd, Mead.
- Krusenstern, A. J. v. 1813. *Voyage round the World in Years 1803, 1804, 1805, 1806, Vol 1*.
C. Roworth.
- Langsdorff, G. H. v. 1813. *Voyages and Travels in Various Parts of the World during 1803-
1807*. Frankfurt am Main. 2vols.
- Linton, R. 1923. *The Material Culture of the Marquesas Islands*. Bishop Museum Press.
- Thomas, N. 2019. *TIKI: Marquesan Art and the Krusenstern Expedition*. Sidestone Press.

(おおた・えいきち 慶應義塾大学大学院)